

令和4年度
太田川再生方針に基づくアユを増やす取組の状況について

太田川再生方針とは…

太田川再生方針は、平成25年度に策定

基本理念：

種苗放流に依存した漁業から脱却し、本来の資源の再生産システムを復元して、天然資源を増大させる。

・太田川再生フォローアップ懇談会で検討された水産振興施策を整理し、取組の対象を太田川を代表する「アユ」と「シジミ」に限定した。

取組等の推進計画(令和元年度～令和5年度)

令和元年度～令和5年度は、平成30年度に決定した計画に基づき、以下の取組を推進している。

年度	令和元年度～令和5年度
懇談会の開催	○(年1回)
短期的、中期的な方策	経常的な取組として実施
短期的、中期的な方策のフォローアップ	方策のフォローアップ
長期的な方策 (高瀬堰の運用)	試験運用の継続 試験運用を実施しながら、 継続的な運用を検討
長期的な方策 (祇園水門・大芝水門の運用)	試験運用の継続 塩水遡上に配慮した運用の 検討、放水路の環境調査等
長期的な方策 の効果検証	効果検証調査

短期的な方策:実施を推進する手法

中期的な方策:科学的根拠を基に内容を検討する手法

長期的な方策:河川管理者などと調整して実施を検討する手法

【短期的な方策】

- アユ種苗(人工由来種苗)の放流
- 産卵場の維持造成

【中期的な方策】

- 禁漁区間、期間の設定
- 晩期親魚放流

【長期的な方策】

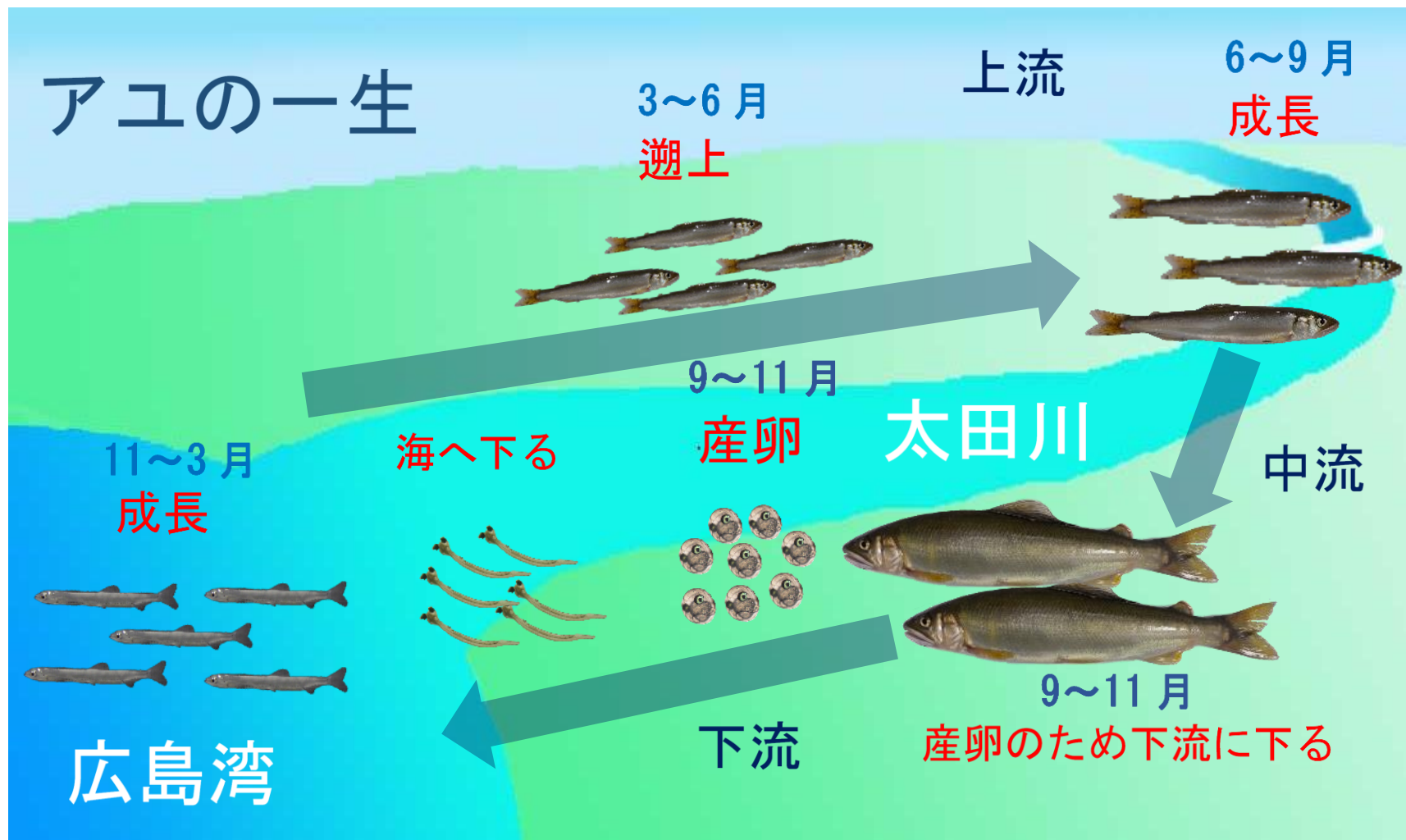
- アユ仔魚の流下促進
- 太田川放水路の活用

具体的な検討内容は、

- ① 高瀬堰の運用
- ② 祇園・大芝水門の運用

太田川再生方針に基づく方策 ～アユを増やす取組～

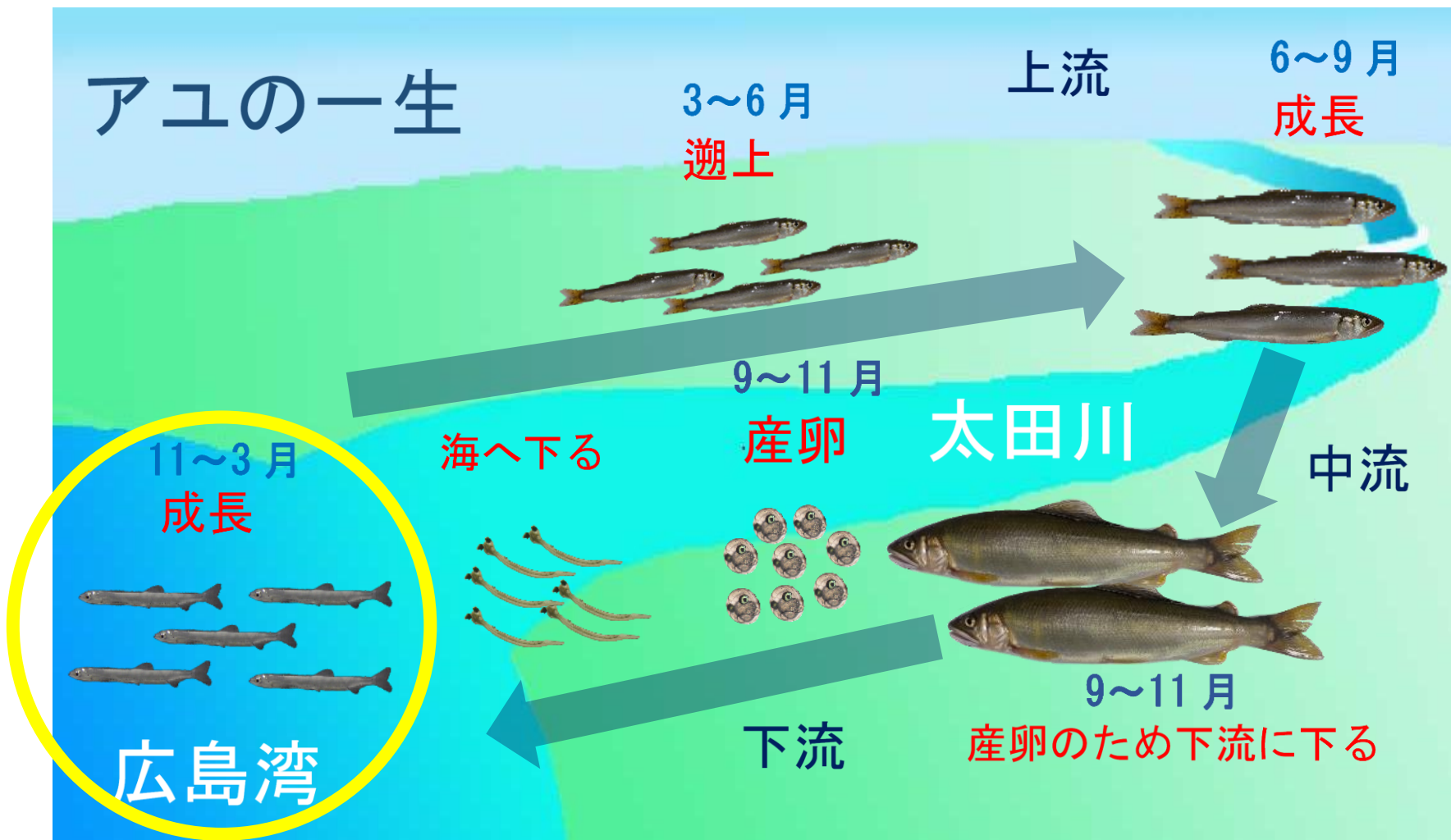
【アユについて】



太田川再生方針に基づく方策 ～アユを増やす取組～

【短期的な方策】

- アユ種苗(人工由来種苗)の放流
- 産卵場の維持造成



【短期的な方策】

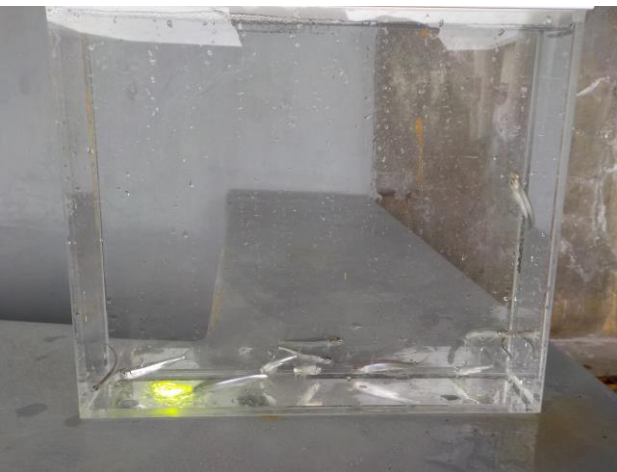
○ アユ種苗(人工由来種苗)の放流

○目的

天然遡上を増やすため、アユ種苗の生産過程において、計画数量以上に生じた市及び県のアユ種苗(人工由来種苗)を放流した。

○放流実績(平成24年度より実施)

放流年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
放流数量(万尾)	23.7	38.2	49.2	32.4	99.7	27.8	40.8	31.5	96.6	55.0

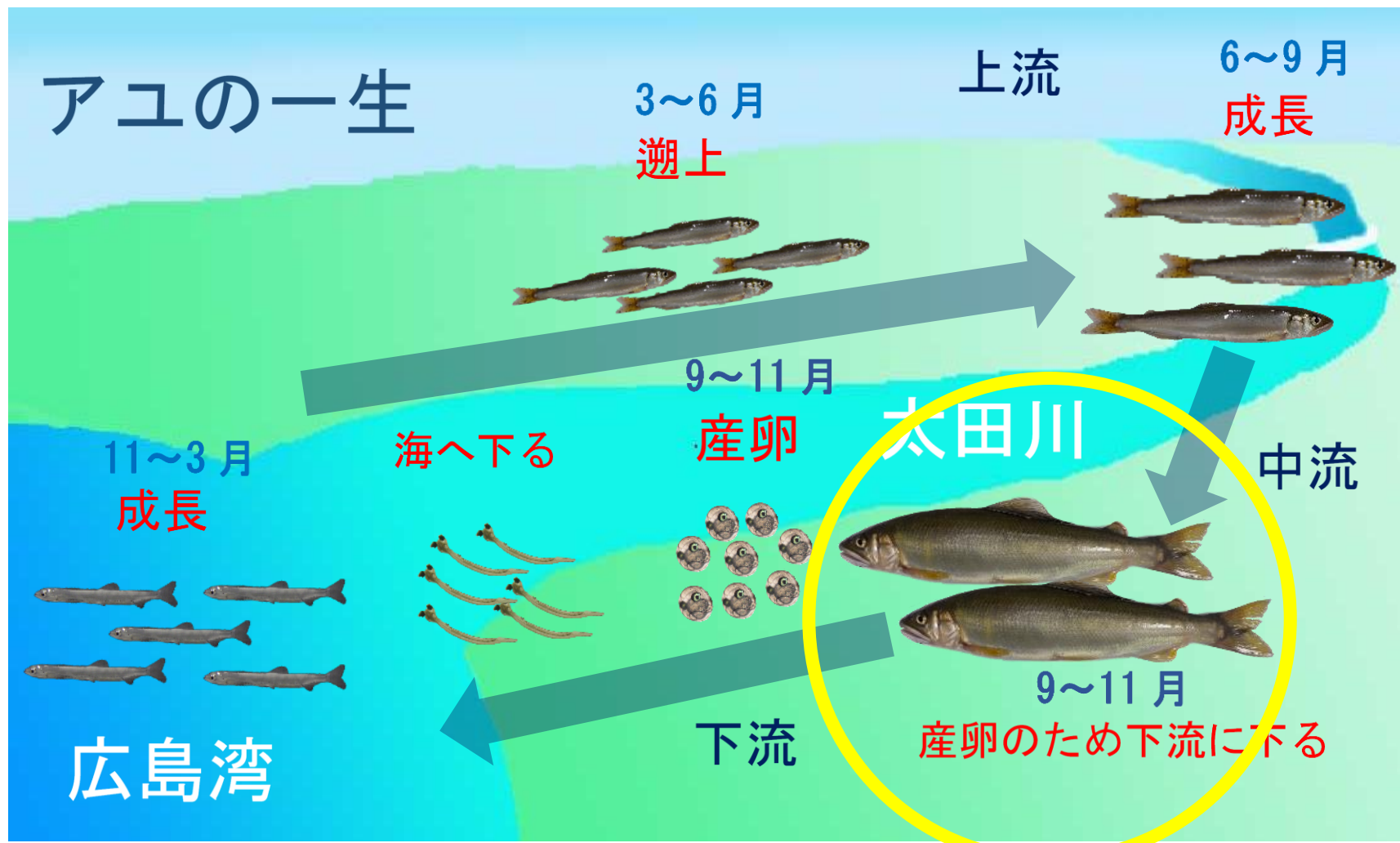


人工由来種苗の遡上の状況については、議題2

太田川再生方針に基づく方策 ～アユを増やす取組～

【中期的な方策】

- 禁漁区間、期間の設定
- 晩期親魚放流



【中期的な方策】

太田川漁協

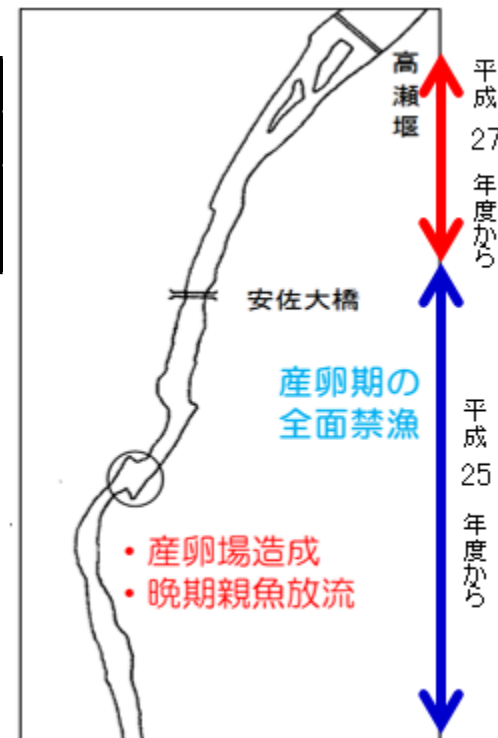
○ 禁漁区間、期間の設定

○ 目的

産卵期の親魚を保護するため禁漁期間と禁漁区間を設定した。

○ 実施状況

	H25～H26年度	H27年度～現在(区間拡大)
禁漁期間	10月1日～11月15日	10月1日～11月15日
禁漁区間	祇園新橋の下流220m ～安佐大橋上流側	祇園新橋の下流220m ～高瀬堰下流30m

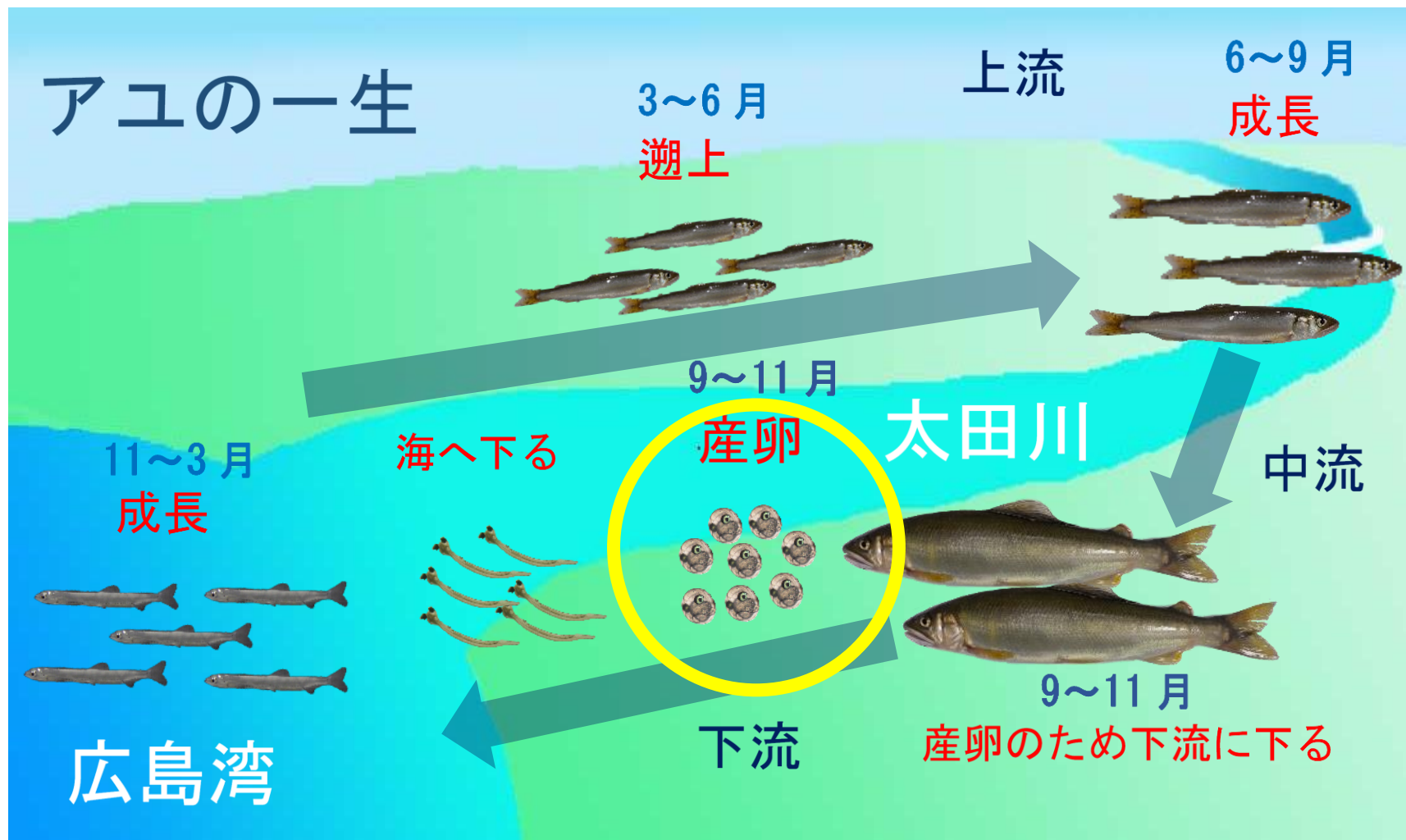


令和4年度も引き続き実施した。

太田川再生方針に基づく方策 ～アユを増やす取組～

【短期的な方策】

- アユ種苗(人工由来種苗)の放流
- 産卵場の維持造成



【短期的な方策】

太田川漁協

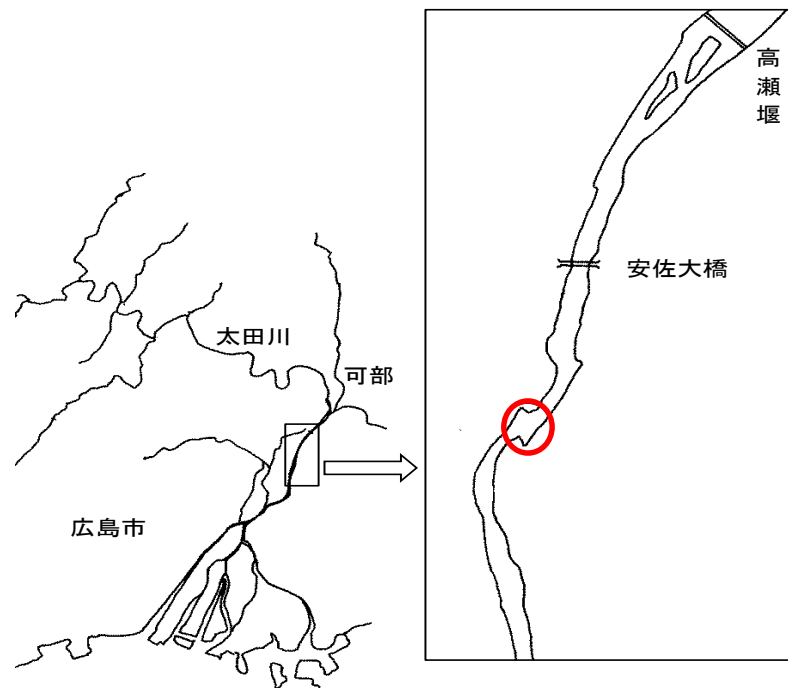
○ 産卵場の維持造成

○ 目的

産卵環境を改善し、アユの産卵量を増やすため、産卵条件に適した産卵場を造成した。



産卵場造成の様子



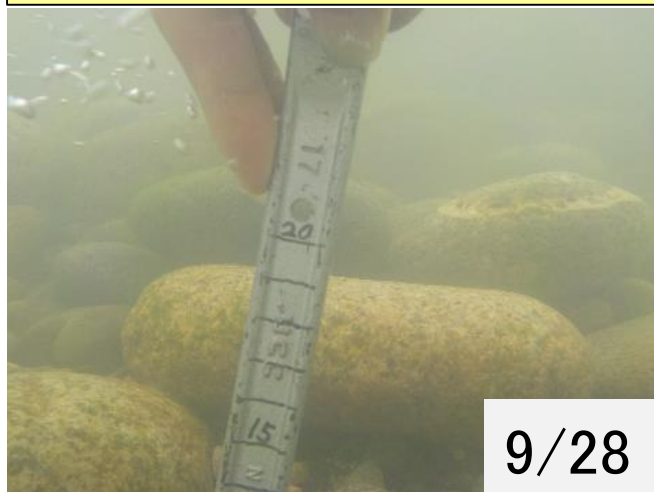
産卵場造成の場所

【短期的な方策】

○ 産卵場の維持造成

※シノの貫入度

アユ産卵場の適地条件：浮石状態の目安10cm※



9/28

造成前(約4cm)



10/1

造成後(約12cm)

○実施状況(平成25年度から実施)

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
実施状況 (造成面積)	1300㎡	中止	200㎡	中止	中止	中止	600㎡	600㎡	600㎡	1200㎡



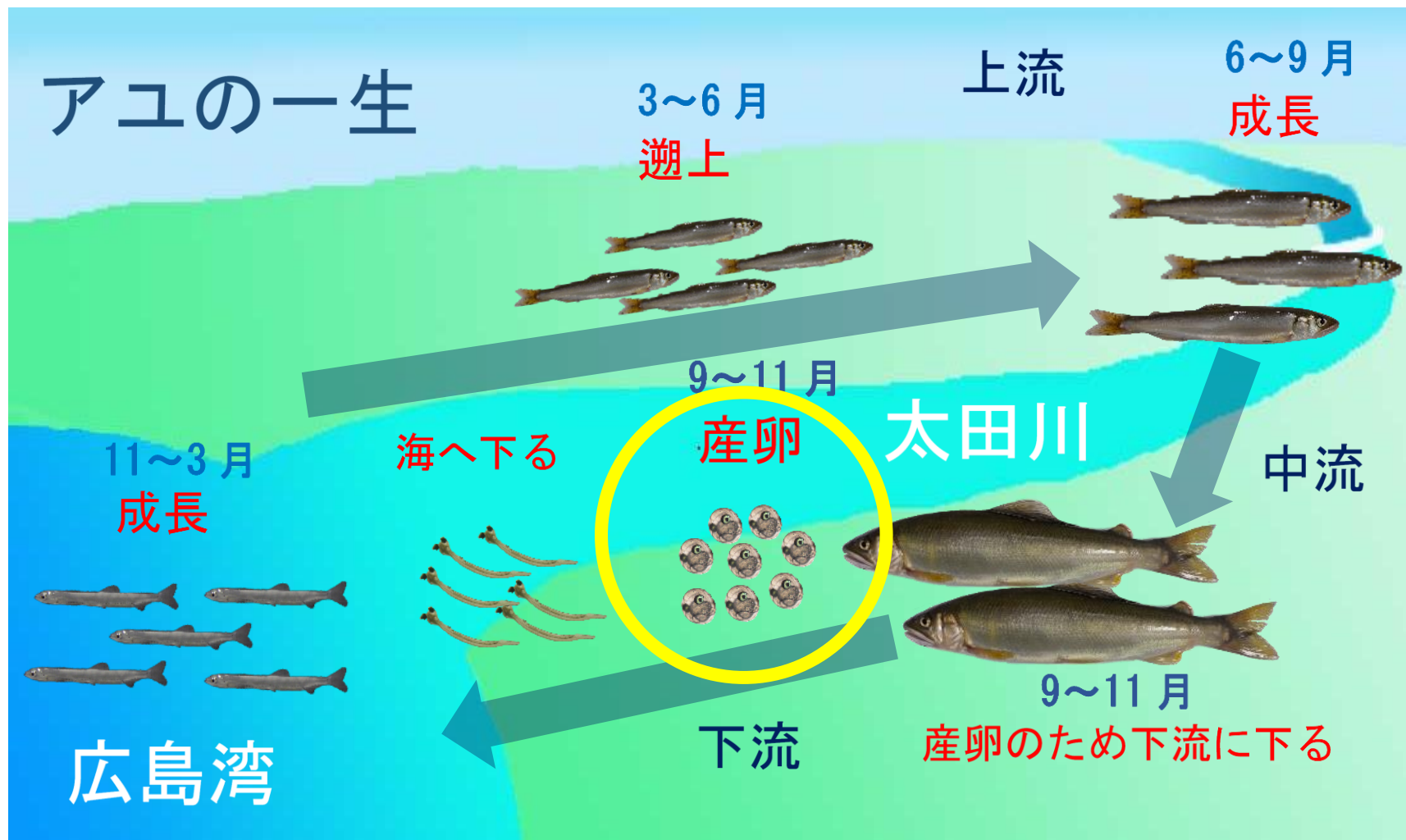
令和4年度の産卵状況調査結果は、資料3を参照。

太田川再生方針に基づく方策 ～アユを増やす取組～

【中期的な方策】

○ 禁漁区間、期間の設定

○ 晩期親魚放流



【中期的な方策】

○ 晩期親魚放流

○目的

アユの産卵量を増やすため、造成した産卵場周辺に産卵期の親魚を放流した。



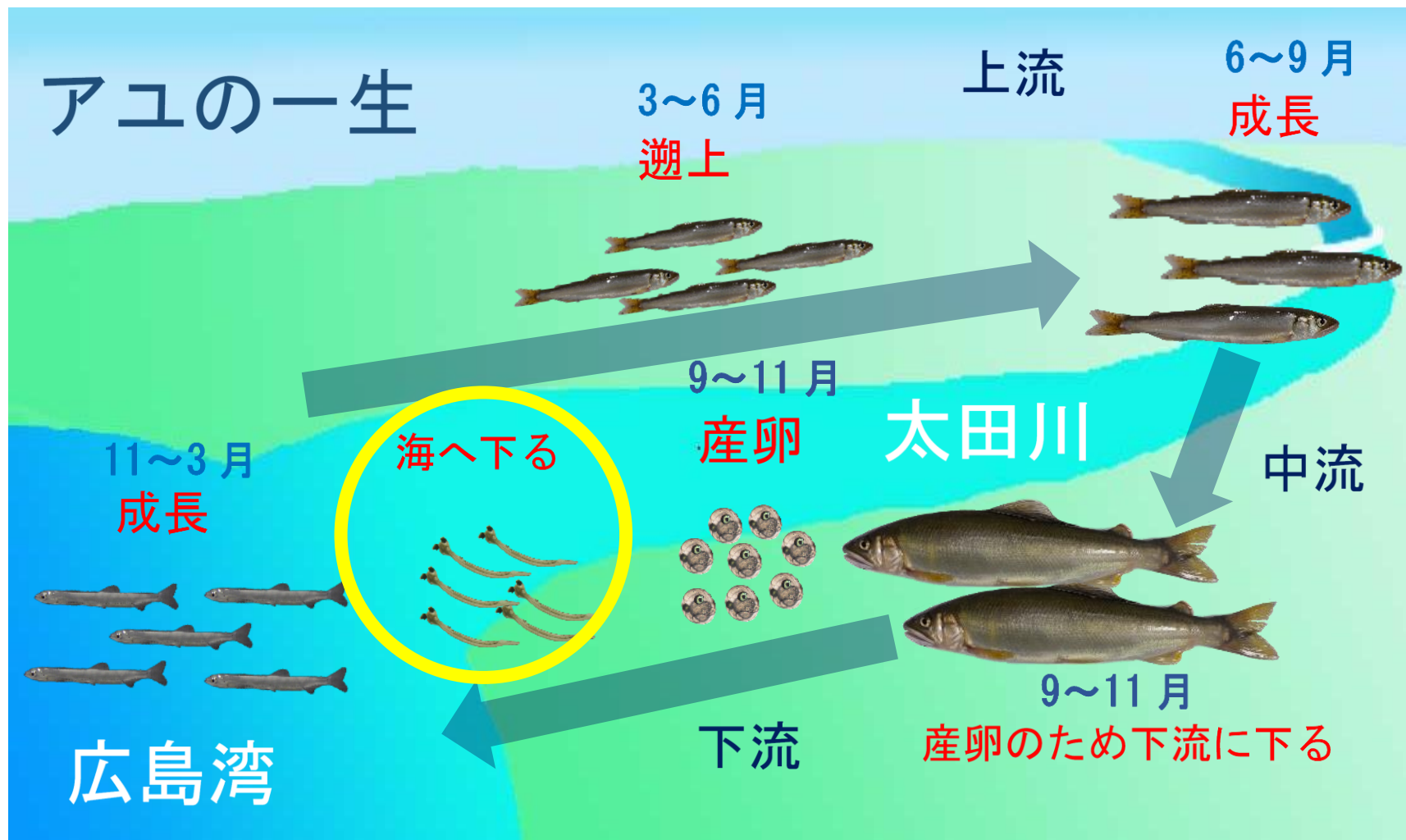
○実施状況(平成25年度より実施)

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
放流数量(尾)	10,000	5,000	8,000	5,500	8,000	5,100	4,000	5,000	2,000

太田川再生方針に基づく方策 ～アユを増やす取組～

【長期的な方策】

○ アユ仔魚の流下促進



太田川再生方針に基づく方策 ～アユを増やす取組～

【アユ仔魚の流下について】



【長期的な方策】

国土交通省太田川河川事務所

長期的な方策とは

アユ資源の回復を目指し、アユの生態に配慮した堰や水門の運用(アユにとって望ましい利水運用)を行うこと。

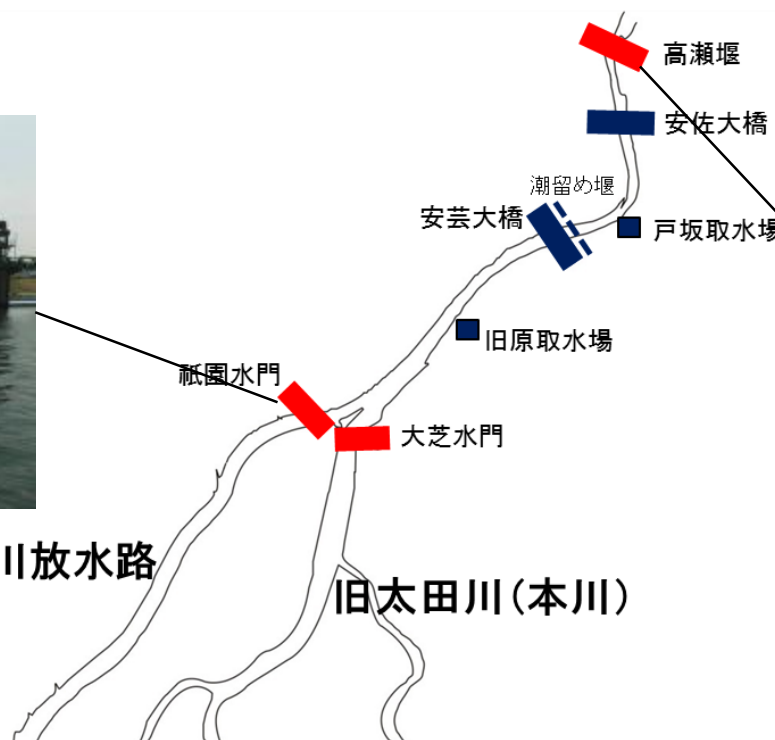
- ① 長期的な方策に基づく高瀬堰の運用
- ② 長期的な方策に基づく祇園・大芝水門の運用

(祇園水門)



太田川放水路

(高瀬堰)



【長期的な方策】

国土交通省太田川河川事務所

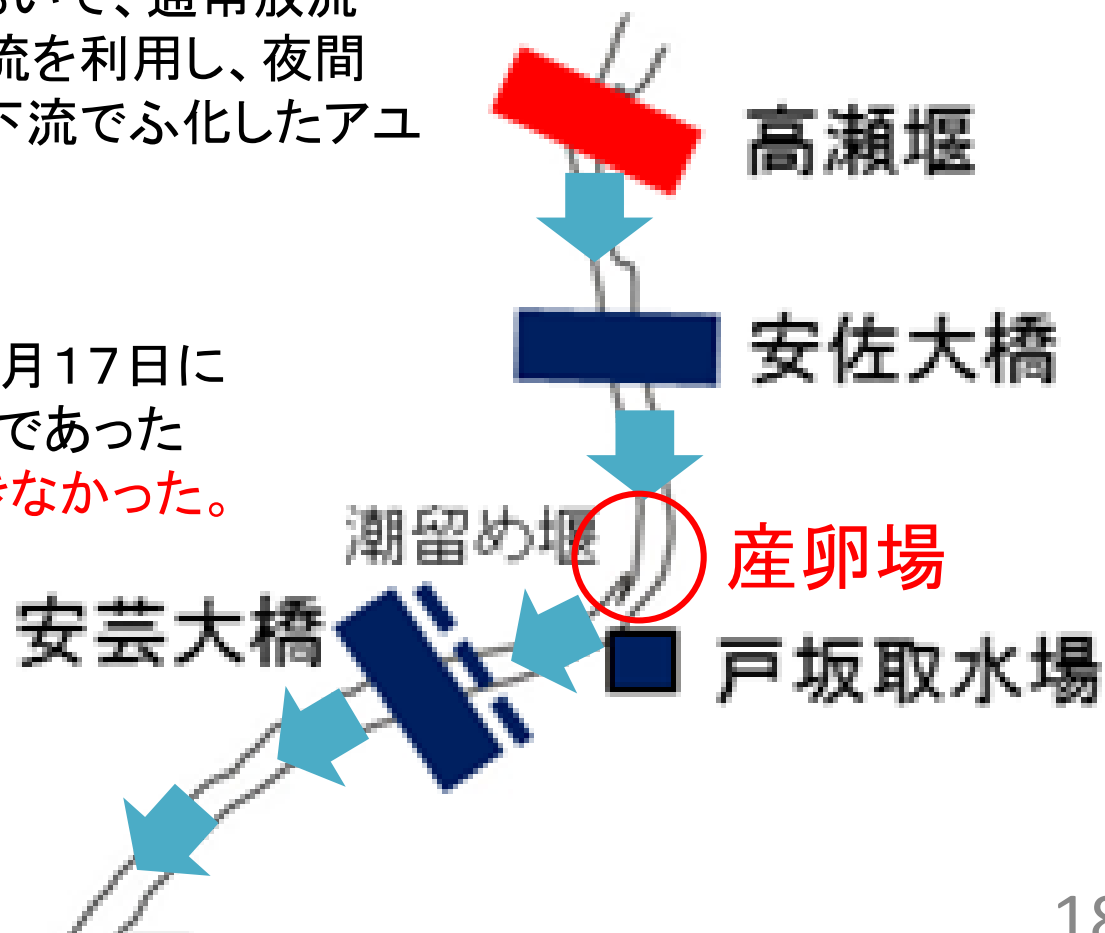
高瀬堰の試験的運用

○目的

アユ産卵期に、高瀬堰において、通常放流に加えて、可部発電所の放流を利用し、夜間の放流量を増やし、高瀬堰下流でふ化したアユ仔魚の降下を促進する。

○実施状況

令和4年11月2日及び11月17日に試験的運用を実施する予定であったが、**渇水のため、運用はできなかった。**



【長期的な方策】

国土交通省太田川河川事務所

長期的な方策とは

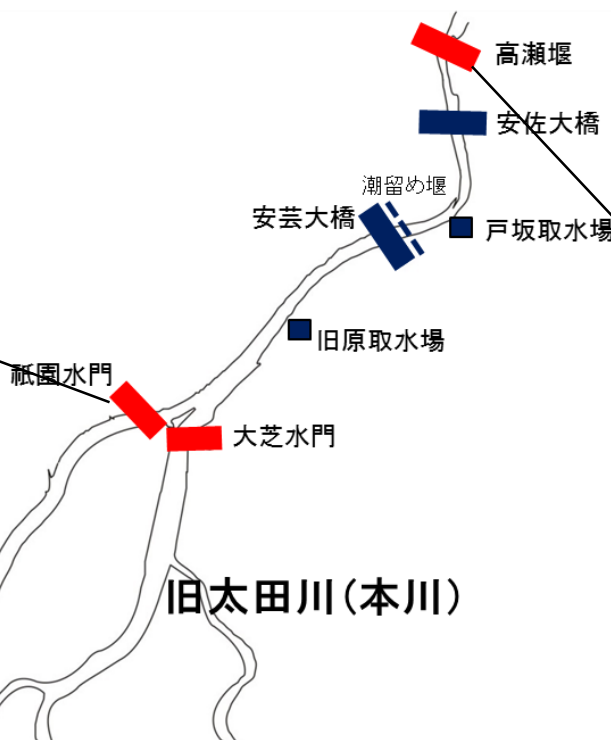
アユ資源の回復を目指し、アユの生態に配慮した堰や水門の運用(アユにとって望ましい利水運用)を行うこと。

- ① 長期的な方策に基づく高瀬堰の運用
- ② 長期的な方策に基づく祇園・大芝水門の運用

(祇園水門)



太田川放水路



(高瀬堰)

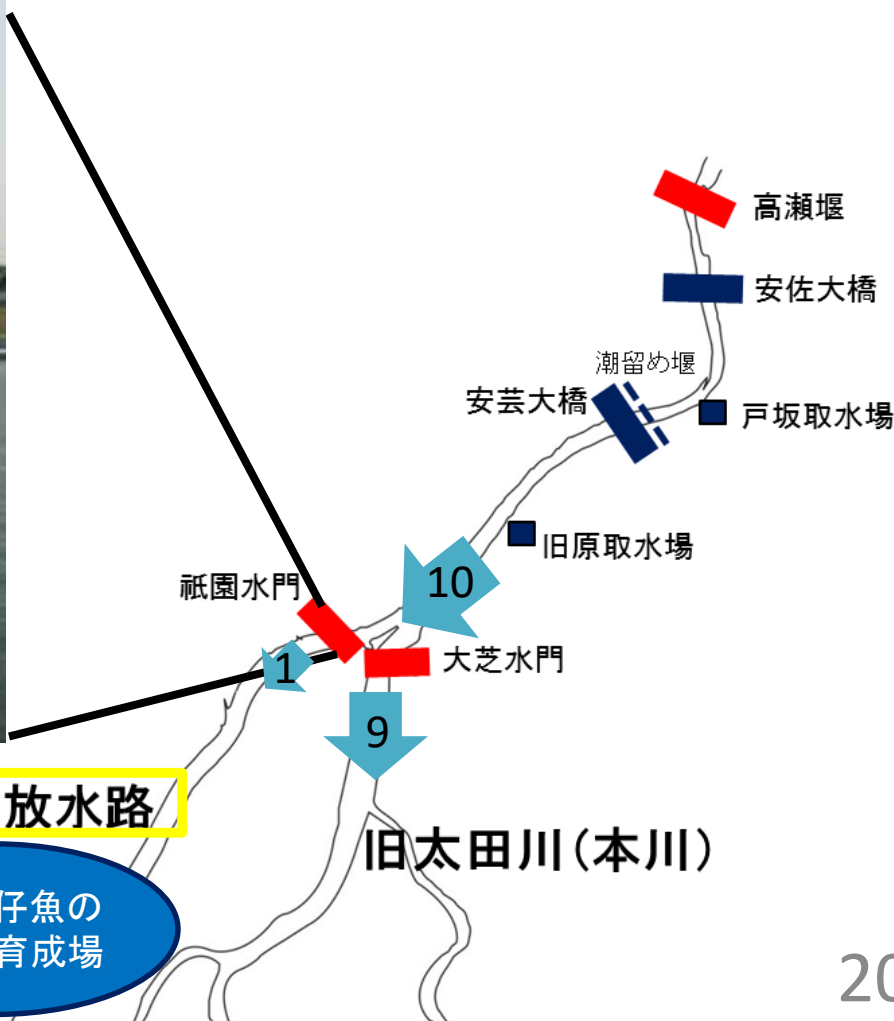


【長期的な方策】

国土交通省太田川河川事務所

祇園水門の試験的運用

(祇園水門)



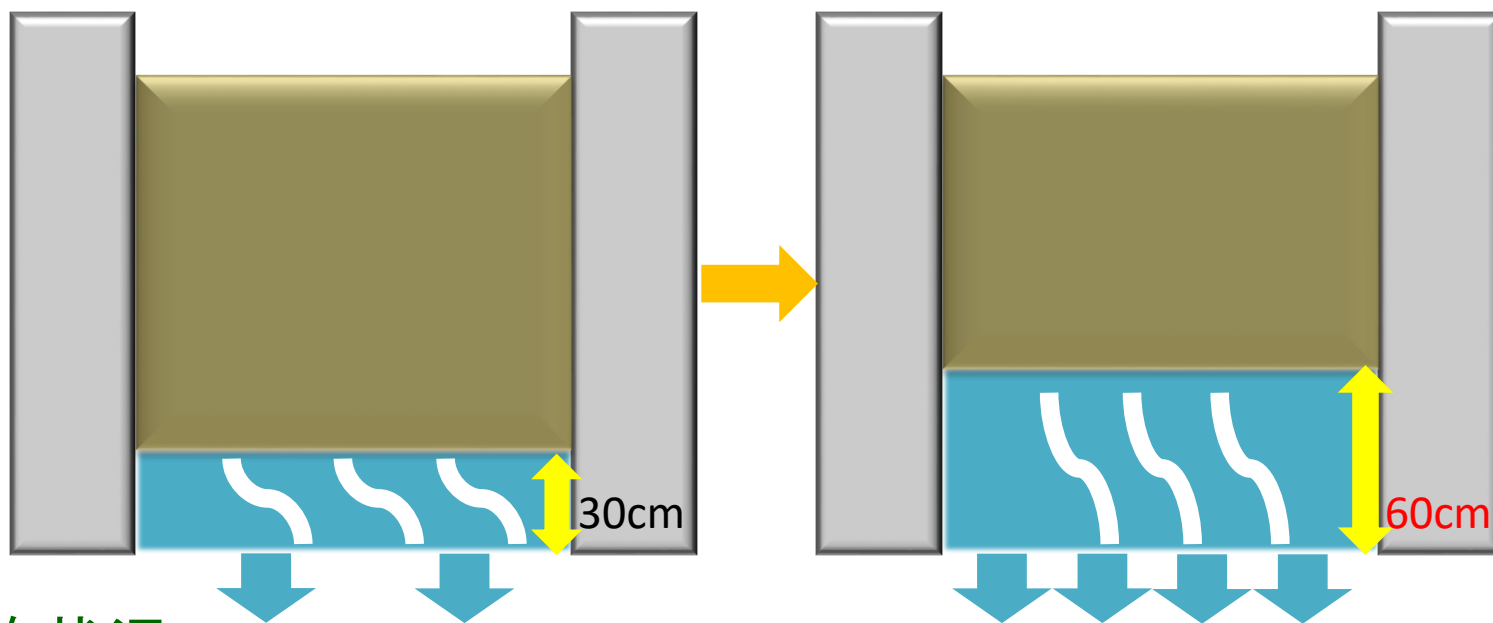
【長期的な方策】

国土交通省太田川河川事務所

祇園・大芝水門の試験的運用

○目的

アユ仔魚の成育に適しているとされる太田川放水路への流量を増やすため、祇園水門の運用(ゲート进行操作)を行う。



○実施状況

令和4年11月2日～3日及び11月17日～18日に試験的運用を実施した。

結果については、議題2